



和歌七部之抄

末嘉祿
海中央

伊地知文庫
文庫20
292
3



しん



未来記

前和奇傳業生柳本貫行

伊地知氏書冊

此書と未来記と号する事ハ後生ハ輩奇と諫
 せらる事海邊のそけきく假し一てたし一
 みわくれしうさ海月とあひ縁はし一てきく新し
 くふるん物らんやまらるるなよ解し一もはれハ入付るよ
 事さる又ハ公初くおし一て西風の事ハ云よ及こ
 長愛風の隠すもしと及つとけいぬ事と縁一と
 綱一して公坊ぬ事とさく一現るあつみ又西代
 仕秀奇ともとぬしとぬくしれとあつ一と
 よまらる一とキらるおりよとさく一と事一ハ事一京極

未来記

おまのうらう 指箱はむねとく 一とせよ二とひか
ひしあまのうらうもやまこせとせぬ人の志
うらうらうらうらうらうらうらう

打出の涙は氷とさういふか 一とせよ二とひか
是の鳥のなみくは氷打とけてをせぬくや
まよとあうらんと云弄とせぬと本弄のあらし
く 鴉カラス云わら弄く 廻まわる氷とさういふは
秀白ヒラカの糸と落おし 一とせよ二とひか
ひとせと打せし 一とせよ二とひか
あうらう

たう去とせぬと 菅スガの糸のひとせぬと 一とせよ二とひか
此弄コノ一とせよ二とひか 是は 一とせよ二とひか
糸くゆるとせぬと 秀弄ヒラカは 一とせよ二とひか
けをのあし 一とせよ二とひか 物と熱のふと
妻つまの心と 一とせよ二とひか 一とせよ二とひか
よとせぬと 一とせよ二とひか 一とせよ二とひか

清くは白雲とせぬと 一とせよ二とひか
白雪のうらうと 一とせよ二とひか
はらうらうらうらうらうらうらうらう
あまのうらうと 一とせよ二とひか

らへ^とおと^い家^いを^いら^いる^いま^いら^いる^いた^いく^いく^い
 の衣^いは^い地^いの^い白^いい^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 乃^い君^い母^いの^い世^いに^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 く^いは^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 を^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 町^い—^いあ^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 侍^い人^い—^いあ^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 海^いれ^いと^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 く^いも^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 て^いく^いも^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い

梅^い花^いは^い山^いの^い白^いい^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 此^い等^い—^いあ^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 乃^い君^い母^いの^い世^いに^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 乃^い君^い母^いの^い世^いに^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い
 ひ^いあ^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い

乃^い君^い母^いの^い世^いに^いら^いる^いま^いら^いる^いま^いら^いる^い

是は秋うつし村竹をよこしきまよひのけりよし一は
これ秋うつし村竹をよこし初くは村竹をよこし
あゆみよき一のけりよしよこしよこしよこし
わろ一あしせんよこしよこしよこしよこしよこし
よこしよこしよこし

あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし

あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし

あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし

あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし
あしせんよこしよこしよこしよこしよこしよこし

妹様記

竹秋は月つるをれ山ありとをてし一草花枕法ひて
拵く秋とをくみこよひつるんと云も同也
山ありとをし初てつるましかつこころを
一や竹らん又秋の草花枕むとらん事しと
るるる也

冬

山あり秋るるるこしひし秋し一草花枕法ひて
拵く秋とをくみこよひつるんと云も同也

と秋のこころや音山ありの枝よ風あり
け舞とを家大い見いんそて未草花は
づくとを付してわきりし物ゆきの縁えんなりや舞
隊の初なりとてしをまあしをまあしとて
乃事付通されいお舞しつるいさしは
くしとされし又中より前の事あり
通と芝をまお枯るしつやるをまお枯るしつ
みら芝やとを付やる事しつるしつる
屋に衣よるぬいさすれ原るしつるれ
よらしつるしつる芝の病付舞とをてらるれ

秋集記

少山と云名前もや又つて其よりたり尺
そさ来^中綿^中行鳥か衣と云身と云く
志出るところを松のたみきと云と一向
吾ん^い不^ふ思^しの^の海^{うみ}や

意

交まると神^{かみ}行^ゆめ^めの^のあ^あの^のい^いも^も物^{もの}と^と人^{ひと}と^と云^いは^はし
家^か連^{れん}の^の神^{かみ}と^と雲^{くも}と^と行^ゆめ^めと^と人^{ひと}と^と云^いは^はし
く^くら^らん^んと^と他^たの^の出^いで^でる^るも^もと^と云^いは^はし

元^{もと}と^と人^{ひと}と^と云^いは^はし
学者^{がくしや}と^と云^いは^はし
行^ゆめ^めの^のあ^あの^のい^いも^も
秀^{ひで}の^のあ^あの^のい^いも^も

新^{あらた}ら^らん^んと^と云^いは^はし
万^ま葉^はと^と云^いは^はし
と^と云^いは^はし
万^ま葉^はの^の後^{のち}と^と云^いは^はし
と^と云^いは^はし
と^と云^いは^はし
と^と云^いは^はし

是に松と何れもあつてはうらやま
はゆかり吹くのでけりよこゆる
枯れ木の村萩秋れて人の心もわかれ山も
慈法和尚 常陸のなま青とよ下
とけりよ海はあまのりよ也起りてはうらやま
と何れ代又あ実ゆるえりまてはうら
奇よ美ふさうりよしん人のえとまのめん
孝翁是とらねりよしん事よこ

雨中吟

此十七首末末記同前よはゆきと別よけ
名と雨半吟と号する事をお可甚く得子細
よてけ名れおよ神あり神のあり名あり
とより神とい年の風神の雨の起る雨明
神よさう風神のありよとよとらりよめ人の
よ一ちあつたよん籍あれ物じりりよ打
ありよ花よくくくくくくくくくくくく
よあよあああああああああああああ
くくくくくくくくくくくくくくくくく

秋の夜半の月を
かきしめてゆく
白き月をよきまに
しるしをたづねて
行くまにゆく
風神よのちよも
まじりてゆく

秋の夜半の月を
かきしめてゆく
白き月をよきまに
しるしをたづねて
行くまにゆく
風神よのちよも
まじりてゆく

ありては
ありては

秋の夜半の月を
かきしめてゆく
白き月をよきまに
しるしをたづねて
行くまにゆく
風神よのちよも
まじりてゆく

秋の夜半の月を
かきしめてゆく
白き月をよきまに
しるしをたづねて
行くまにゆく
風神よのちよも
まじりてゆく

子とてゝるもあつとあると申すは事あるも
 一二の方面なり。あつと申すは生田の村に海を
 して水とてゝるも後学は事あるも
 平之事はしもの風を削る物とてゝる
 海一とてんとてゝる物とてゝる
 されとてゝる物とてゝる物とてゝる
 奥に事ある

此風神とてゝるもあつと申すは事あるも
 一とてゝる物とてゝる物とてゝる
 此育字者能く可也と思ふ者有れ

